

文化庁

学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業

ユニバーサル公演事業

東京演劇集団 風 『星の王子さま』

はじめに —

本事業は「子どもたちが優れた舞台芸術を鑑賞し、芸術文化団体等による実演指導、ワークショップや団体との共演に参加し、優れた舞台芸術に身近に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の向上に資する事業」です。

舞台芸術を鑑賞するだけでなく、事前の実演指導やワークショップに参加し、本番の舞台上で芸術文化団体等と共演することが本事業の特徴です。

しかし本公演の特色はそれだけでなく、普段は体育や行事を行っている学校の体育館が工夫次第で劇場に変わることに、また、舞台を観ることの感動に加え、舞台に参加・共演することによって子どもたち自身、先生方が協力し合って、その日の舞台を創り出していく喜びを体験するという〈社会教育的側面〉にあると私たちは考えています。

さらに、この事業で行われる舞台をきっかけに、先生と子どもたち、あるいは子どもたち同士に新しい出会いが生まれ、一人一人が持っている個別の能力や可能性を再発見できること。劇団員との交流や、他の人の感性に学び、〈ふれあい〉のなかで工夫すること。また鑑賞を通して自身と向き合い、自分を信じる心を育て、互いを認め合う大切さを学べる可能性を持っていることも、本事業の大きな特色です。

東京演劇集団風の〈参加・共演〉は、全校生徒・児童を対象として行っています。

先生方と劇団との事前の打ち合わせを密に行い、本番のためのワークショップ（稽古）を開き、本公演が子どもたちにとって有意義なものとなるよう、劇団も努力いたします。ご協力をお願いいたします。

■ 本公演内容

東京演劇集団 風 ミュージカル

Le Petit Prince 星の王子さま

作・サン＝テグジュペリ

訳・内藤洋(岩波書店刊)
©Famitsu Gallimard(1946)

(上演時間：100分／途中休憩：10分)

※カーテンコール、移動時間などを含めた所要時間は2時間15分です。

作：サン＝テグジュペリ

構成・演出：浅野佳成

音楽：八幡茂

演出助手：江原早哉香／西垣耕造

舞台美術：松井るみ

衣裳：出川淳子

振付：郡司行雄

照明：坂野貢也

音響：酒見篤志

製作：佐藤春江

出演

王子：白根有子

飛行士：緒方一則

キツネ：工藤順子

花：渋谷愛

ヘビ：栗山友彦

星の住人ほか：酒井宗親
蒲原智城

『星の王子さま』 あらすじ

『星の王子さま』は第二次世界大戦のさなか、1943年に出版され、現在も年齢を問わず世界中の人たちに愛され続けている、サン＝テグジュペリの名作です。

子どもの頃絵描きになりたかった飛行士と、自分の体より少し大きいだけのちっぽけな星からやってきたという星の王子さまが、砂漠の真ん中で出会い、友情が芽生え、別れていくまでの物語です。

自分の星に一輪の花を残して旅に出た王子さまは、そこで様々な人と出会います。最後に降り立った地球で、キツネに「仲よくなるというのは、時間をかけて、愛情を注ぐこと。面倒をみた相手には責任があるんだ」と教えられ、王子さまは一輪の花のために自分の星に帰ることを決意します。

懸命に生きる小さな王子さまの一途な姿を通して、東京演劇集団風の『星の王子さま』は地球の美しさ、そしてそこに生きる人間が、なくてはならないものを探し求めています。

王子さまが若い観客たちに、私たちに語りかけます—「目に見えないものが大切なのだ」と。

■ 参加形態

- ① 「呑み助」 役での参加 (参加対象：先生) 【シーン4 星めぐり】 (33 ページ)
- ② 「地理学者」 役での参加 (参加対象：校長先生、先生) 【シーン4 星めぐり】 (36 ページ)

王子さまが巡る様々な星の住人、「呑み助」「地理学者」のふたつの役を先生に演じていただきます。先生方の参加の部分は、日々の授業の負担にならぬよう、本番当日にリハーサルを行います。

*先生方にも参加していただくことで、子どもたちが安心してリラックスして参加できること、また学校全体の取り組みを感じられるためのものです。事前の準備や練習は必要ありません。

- ③ 最上級生 (中学 3 年生・小学 6 年生) の参加 旅立ちの歌♪「ぼくの旅は続く」
(参加対象：最上級生 [中学 3 年生、小学 6 年生]、または有志の児童・生徒)

【シーン4 星めぐり】 (39 ページ)

1 幕最後のシーンで、「地理学者」の先生のアドバイスで地球へと旅立つ王子さまが歌う、ソング「ぼくの旅はつづく」に、最上級生のみなさんが歌で共演します。卒業を控えた最上級生の、学校生活の大切な思い出のひとつとなればと考えています。

*本番当日に実際の舞台を使って、俳優、スタッフとともにリハーサルを行います。

*児童・生徒のみなさんには、王子・飛行士どちらのパートを歌っていただいてもかまいません。

- ④ 〈メインとなる参加〉『星の王子さま』クライマックスシーン

(参加対象：全校生徒・児童) ★事前のワークショップで、俳優と一緒に練習します。

- ・ソング♪「ぼくは行く」歌での参加 【シーン8 水】 (70 ページ)

2 幕最後の物語のクライマックスで、王子さまが自分の星に帰ることを決意し歌うソング「ぼくは行く」を、生徒・児童全員が、王子さまとかけ合いで歌います。

- ・台詞での参加【シーン8 水】 (73 ページ)

自分の星に旅立つ王子さまに呼びかける「おーい、おーい、どこへ行ってしまったんだよ」という台詞を、飛行士と一緒に呼びかけます。

■ ワークショップ

ワークショップは、全校生徒・児童を対象に行います。

演出家が指導を担い『星の王子さま』がどんな作品なのか、子どもたちがどのように参加するのかが伝えられます。子どもたちは本番でメインの参加となるクライマックスシーンの練習（稽古）を、共演する俳優たちの実演とともに行います。ワークショップは、公演当日を子どもたちにとってより有意義な、より思い出深い経験とするためのものです。

◇ ワークショップの行程

ワークショップ開始前 簡単な準備 (30分程度)	ワークショップ (授業時間約2校時分)	ワークショップ実施後 ご担当の先生方との 公演に向けての打ち合わせ (30～45分程度)
--------------------------------	------------------------	---

- ・ワークショップは本番当日と同様、全校生徒・児童を対象に行います。
- ・ワークショップ開始の約30分前には学校に到着し、音響などの簡単な準備を行います。
- ・ワークショップ終了後に、ご担当の先生方と公演までの流れや、公演当日の内容について打ち合わせを行います。

◇ ワークショップの内容

〈参加内容や作品の説明〉

本事業について、『星の王子さま』のあらすじや作品の背景、子どもたちの参加場面について演出がお話します。また本番当日の参加の意図や、趣旨も説明します。

〈俳優の実演による、動き、歌、台詞の練習〉

全校生徒・児童のメインの参加となる『星の王子さま』のクライマックスシーンを、共演する俳優たち（王子役・飛行士役・ヘビ役）と一緒に練習します。

- ・「参加場面になったら自分の意思で立ち、俳優と気持ちをあわせる」（動き）の稽古
- ・自分の星に帰ることを決意した王子がヘビとかけ合いで歌う歌「僕は行く」（歌）の稽古
- ・地球を去った王子に飛行士と一緒に呼びかける「おーい、おーい、どこへ行ってしまったんだよ」（台詞）の稽古
- ・最後に本番と同じ設定で、参加場面の通し稽古を行います。

■ 本番について

◇ 本公演のタイムスケジュールの一例

公演当日、前日のタイムスケジュールの一例です。（※開演時間が 13 時の場合）

開演時間、前日の公演場所（学校と学校との移動距離）、体育館の条件などにより設営の開始や準備にかかる時間は学校ごとに異なります。ですので設営時間、リハーサル時間、開演時間などは、先生方との打ち合わせのなかで個別に設定していきます。

	時	前日・当日の流れ	詳細・備考
公演前日	13:00		（※公演前日が日曜日、または祝日の場合は、前日の午前中、または午後から準備をさせていただく場合があります）
	14:00		
	15:00		
	16:00		
	17:00		
	18:00		
	19:00～ 21:30	（学校到着） 舞台設営	<ul style="list-style-type: none"> *連日の公演となるため、前日に公演を行う学校からの移動距離によって、学校への到着時間が異なります。学校に到着次第、舞台設営を行います。 *設営にかかる時間は体育館の条件によって異なりますが、おおむね 2 時間～2 時間半程度です。舞台設営は基本的に前日夜間の作業となりますのでご了承ください。 *会場の条件によっては 24 時以降まで設営を行う場合があります。夜間の作業となるため、体育館の鍵をお預かりして作業を行う場合もあります。
24:00			
公演当日	8:00～ 9:30	（学校到着） 公演のための準備	*前日の設営状況によって異なりますが、当日は朝 8 時頃に学校に到着し、引き続き公演のための準備を行います。
	9:30～ 12:00	リハーサル	【参加形態①、②】 先生の参加「呑み助」「地理学者」のリハーサル （お 2 人で 30 分程度） 【参加形態③】 最上級生（中学 3 年生、小学 6 年生）のリハーサル （授業時間 1 校時分・45 分程度） *全校生徒・児童の参加場面のリハーサルは行いません。 *舞台見学を希望される場合は、上記リハーサル以外の時間帯で設定できます。 *吹奏楽部・プラスバンド部の演奏での参加をされる場合は、この時間にリハーサルを行います（リハーサル時間：30 分～ 45 分程度）
	13:00～ 15:15	本番 （途中休憩 10 分）	*本番は会場に生徒・児童さん全員が集まってから、生徒・児童さんが教室に戻るまでを <u>2 時間 15 分</u> とを考えています *本番のはじめ方、終わり方などは先生方と細かく打ち合わせします。 *給食時間や下校時間なども含め、先生方と相談のうえ開演時間は各学校個別に決定します。
	15:30～ 18:00	舞台撤去	*舞台撤去にかかる時間は、通常体育館でおおよそ 2 時間半程度です。 *舞台撤去と並行して、座談会などの交流が可能です。
	19:00		

*タイムスケジュールは各学校により異なります。あくまでも目安としてご参照ください。

◀これまでに行った参加・体験の一例▶

『星の王子さま』の公演を通じた生徒・児童の参加・体験形態、その他の一例です。学校や先生方の要望があれば、以下にあげるような交流や体験も可能です。

◇バックステージ・ツアー（舞台裏見学）

本番当日の午前中、体育館に組み上げられた舞台の仕組みを、舞台・音響・照明の専門のスタッフたちが説明します。

◇特別支援クラスの子どもたちなどのオペレート体験

慣れない環境や、音、暗い所が苦手という子のために、オペレート体験などを通して、本番前の舞台にふれ合う機会が設けられます。「実際に舞台で使用する照明を自分で操作してみる」「舞台で使われる音を出してみる」などの体験を通して、舞台をより身近に感じ、みんなと一緒に参加する楽しさを感じてもらいたいと考えています。（特別支援クラスの子ども以外でも体験は可能です）

◇質問コーナー、インタビューなどでの職業体験

授業の一環として、俳優やスタッフにインタビューをしてみるなど、職業体験の場として活用される学校もあります。希望があれば、先生方との時間調整のうえで対応が可能です。

◇俳優・専門スタッフとの交流・座談会

キャリア教育の一環として俳優や専門スタッフ（音響・照明・舞台）との交流や、公演終了後、感想や疑問に思ったこと、舞台への質問などを話し合います。

◇舞台設営・撤去作業の体験

舞台設営や撤去作業をスタッフ・俳優と一緒に取り組むことで、舞台の仕組みを理解したり、舞台づくりに関わる人の姿に触れる時間と考えています。（※舞台設営は基本的に公演前日の夜間に行われるため、実際には撤去での交流が主になります）

◇吹奏楽部・ブラスバンド部による演奏での参加

吹奏楽部・ブラスバンド部などの参加を希望される場合は、劇中の歌「ぼくは行く」「光と影」の生演奏による参加が可能です。演奏用の譜面をご用意できます。本番当日まで学校で練習していただき、本番当日の午前中、俳優と一緒にリハーサルを行います。

◇生徒会・文化委員会などの生徒たちとの、公演の企画・製作

委員会の活動の一環として公演を位置付け、委員会主導により公演を実施します。

◇公演に向けたポスター作りや展示物の作成

美術の時間や部活動、委員会活動で、公演に向けたポスターや、『星の王子さま』の本の紹介などをつくり、公演がより思い出深いものとなるよう工夫する学校もあります。

■ 企画の主旨

舞台鑑賞から舞台創りに〈参加共働する〉試みへー

❖ 豊かな感性を育て、自我のめざめの手助けに

優れた芸術作品の鑑賞とともに、優劣を問わない〈創造・表現活動〉が、豊かな心を育て、自我をめざめさせる手助けになります。しかし教育現場では受験科目の限定や、授業日数が少なくなっていく学校教育のなかで、芸術的創造活動の場をつくることは、きわめて困難なのが現状ではないでしょうか。

私たちが提案する〈創造・表現活動〉は『星の王子さま』の作者は誰かという知識や、歌を音程通りに歌うことではありません。演技すること、歌うことを通じて、自分で感じたことを自分なりに表現することの楽しさ、他の人の表現に触れて「いいな」と学び、そこから感じる力を身につけること、さらに、心の目で見る体験を重ねて自分の感じ方＝自我に自信を持ち、人の存在に気づいてほしいと考えています。

舞台創りの経験は、まさに表現と創造の楽しさ、歓びを学ぶ格好の機会です。

わたしたち東京演劇集団風は、生徒・児童と先生方が劇団員と一緒にあって、ともに有意義な舞台創りを行えるよう、各校の先生方と話し合いを進めていきます。

❖ 新たな目線でふれあえる〈場〉の創造に向けて

私たちはこれまで文化庁主催による「中学校芸術鑑賞教室」(1995年)等、各地で「参加共演型」の公演を重ね、そのたびに新しい出会いと感動によって励まされ、劇団員も表現と創造の歓びを実感してきました。

—子どもは好奇心の天才だ—という子どもたちのありのままの姿を見せられて、子どもたちの表情、声、姿から、この事業の在り方を教えられることもしばしばです。

このような事業を行うとき、多くの人々の視線は〈子どもたちが感動できる場〉ということに目がいきがちです。けれどもいま、教育現場に必要な〈場〉は、先生が子どもたちを新たな視線で見直せる〈場〉、子どもたちがより先生たちに信頼と親しみを感じられる〈場〉ではないでしょうか。

本事業を通して見られる「懸命に自ら進んで歌や台詞で芝居に参加する子どもたち」「好奇心を持って劇団員と接する子どもたち」「舞台上に涙を流す子」。そこで起きる、子どもたちと先生が新たな目線でふれあえる瞬間。本事業はそのような〈場〉を学校に提案、呈示していく事業だと考えています。

❖ 子どもたちが創意・工夫・努力できる〈経験の場〉づくりを

本事業の公演は、学校の体育館で行われます。

体育館での上演は、普段スポーツや体操で使っている場所が人の手と工夫によって、本格的な劇場になるという驚きを生みます。「ウァー」とか「すごい！」という言葉で表される子どもたちのこの〈驚きの体験〉は、彼らに創意・工夫することの面白さを経験させることにもつながります。

ひとつの体験が経験化される—経験とは〈モノ〉あるいは〈事象〉と自身との相互交渉によって生まれてくるものです。「体育館が劇場になった！」子どもたちはその驚きのなかで知恵とか努力とか互いに協力し合って工夫することによってできた〈劇場〉という空間・場を体感していきます。この〈驚きの体験〉のなかで子どもたちが経験したことは、創意とか努力とか協力・工夫ということへ発芽していく自身の姿なのではないでしょうか。

このような〈経験の場〉づくりの契機のひとつとして、学校の体育館での上演は大きな意味合いを持っていると考えています。

❖ 子どもたちにとって有意義な経験となる公演・ワークショップのために

また、この公演には生徒・児童、先生の舞台への参加がプログラムとして組み込まれています。その参加のためのワークショップが事前に行われ、その日を出発点として、公演のための学校独自の準備・練習が行われ、そして本番というプロセスを通して、本事業が実施されます。

このプロセスのなかで、子どもたちは人と一緒に何かを創ることの難しさ、楽しさを体験します。この事業の重要性は、子どもたちが成長するにあたって不可欠な“経験”という水源地を子どもたち自らが発見することを手伝えることにあると考えています。

東京演劇集団風の『星の王子さま』の参加・共演は自己表現、創造活動の場を経験することにより《さまざまな人間の手によって創られる舞台鑑賞の経験》、《台詞・歌による参加》で子どもたちは鑑賞力と、自分で感じ表現することの喜び、楽しみを体験します。本事業への取り組みによって「生徒の自尊感情が高まった」「ほかの行事への取り組み方が積極的になった」という先生方の声を大切に、公演をつくっていきたいと考えています。